

嬉 望

第 3 号

平成25年 5月22日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東
キャンパスが嬉野台地
区にあることと、「希望」
とをかけた造語です。



ひょうちゃん
大学マスコット

大学幹部インタビュー

第2回・上口孝之 理事・事務局長

前回に引き続き、本学の幹部に、教職大学院のあり方や、学校経営コースに対する考えなどをお伺いしました。今回は、上口孝之 理事・事務局長です。

上口事務局長プロフィール
昭和52年、函館工業高等専門学校に採用され、昭和61年から平成9年まで文部省に勤務。

総合研究大学院大学を経て、平成11年に文部科学省に復帰し、初等中等教育局教科書課で教科書検定、教科書無償給与、拡大教科書等の業務に8年間携わる。その後、放送大学、国立教育政策研究所を経て、平成23年から東北大学に異動し、教育・学生支援部長、総務部長として東日本大震災後の対応にあたる。平成25年より、兵庫教育大学理事・事務局長。

※本学の印象について

前任の東北大学は、総合大学で非常に規模が大きいのですが、兵教大は単科大で教職員が顔がよく見え、適正な規模だと感じています。また、先日大学院修学休業制度を利用して学んでいる方たちとお会いしましたが、特に現職の大学院生は目的意識が高い方が多いと思います。

※東北大学では、震災対応に当たられたそうですね

震災直後に教育・学生支援部長として着任しました。当然通常の教育・研究活動はできないので、学年暦や、被災学生の支援をどうするのか、新規の奨学金や臨時の寄宿舎など、とにかく目前のやらなければならぬことを片付け

ていくという感じでした。

※この経験から、私たちにアドバイスがあれば

自分に何ができるのか、何をすべきかを常に考えることだと思えます。非常時ですから、例えば「いのち」を守るための選択として、通常の規則にとらわれず、破るという判断ができるか、その勇気が出せるかどうか。想定外のことや起きたときにどうするかを、普段から意識しておくことがよいのではないのでしょうか。

※兵教大は、どのような大学ですか

教師教育のトップランナー

にふさわしい教育プログラムを持っていると思います。また、学生が「この先生に学びたい」という、力のある教授陣が揃っていることも大きな強みだと思います。その分、学業は大変そうですが(笑)、学生に勉強させるのは、大学のあるべき姿ですからよいことだと思います。

事務局の課題としては、まだまだ学生のニーズの把握が不十分だと感じています。学生の教育のために何ができるのか、特に独立行政法人化されたので、意識を変えていく必要性を感じています。また、教育現場は忙しく、様々な課題を抱えていると思います。が、教育に特化した大学として、何か支援ができないかという思いを持って業務にあたっています。

※現職教員の派遣について、どのようにお考えですか

教育委員会に対しては、派遣先は本人の希望だけで決めるのではなく、各都道府県が求める教員を育成するために、兵教大への派遣を戦略的に考えていただきたいと思います。また、本学の修士生にも、周囲にそのような意識が生まれるよう、現場に戻ってからも努めていただければと思います。

「学校改善チャート」ポスターセッション発表

5月11日(土)に開催された大学院説明会で、2年生が、昨年、専門科目「学校組織マネジメントと学校評価」で作成した「学校改善チャート」のポスターセッションを行い、来場者と1年生に、各自のチャートの説明と質疑応答を行いました。

「学校改善チャート」は、各自のそれまでの学びと問題意識をもとに、現任校の学校改善を進めるための3年間の動きを图示したもので、最終成果物である「学校改善プラン」へのステップとして位置づけられているものです。



大分県玖珠郡九重町教育委員会

フィールドワーク報告

学校経営コースでは、大学の教育委員会や各種学校にも学びの場を求めるフィールドワークの機会が数多く設定されています。これは、学校現場にいたときには、望んでもなかなか実現することが難しかったことの一つであり、私たち院生にとって、またとない貴重な学びの機会となっています。

去る5月1日、2日に、加治佐学長、日渡教授（教育行政能力育成カリキュラム開発室長）、同開発室メンバー、日渡ゼミ院生等、総勢10名で大分県玖珠郡九重町を訪問しました。目的は、今後の教育再編について検討している九重町教委の依頼を受け、継続的に支援・協力をを行うためです。

1日は、古後教育長はじめ町教委幹部や各校管理職との情報交換を行いました。九重町の教育について話を伺う中で、特に強く感じたのは、教育長の教育改革への熱い思い

と、町教委と学校が気持ちを一つにして子ども教育に關わっていかうとされる「オール九重」の精神でした。

2日は、統合新設された「このえ緑陽中学校」視察の後、「第1回九重町教育委員会・兵庫教育大学教育行政能力育成カリキュラム開発室連携協議会」が行われました。

九重町は本年度から4校あった中学校が1校に統合され、「このえ緑陽中学校」が誕生したこともあり、町内6小学校と1中学校の学校・地域・保護者が協働して子ども育成を図る新しい教育システムの構築に取り組みうとされています。そのため、文科省の補助を受け「学校のマネジメント力強化するための実践研究」が進められる予定で、将来的には「このえ学園構想」という長期的な展望を視野に入れていきます。具体的な研究の柱は、次の3つです。

- ① 特色ある学校づくり
- ・ 特色ある教育活動・教育課程の編成
- ・ 教育目標達成のための自主的な予算編成（フレーム化・総枠化）への取組みと、学校の要求を町の予算に反映させるシステムづくり

- ② 教育委員会の取り組み
- ・ 学校管理規則の見直し
- ③ 管理職層への働きかけ

・ 組織マネジメント力向上のための研修

今後、院生のインタビューも含め、長期的かつ積極的に九重町の教育改革に關わることを学びとし、院生各自の教育課題解決にも生かしていきたいと考えています。



教職大学院 学びの紹介 学部生支援により若手育成を学ぶ（その1）

本学は、教員養成の学部と現職教員のいる大学院があることが特色です。学校経営コースでは、1年後期から2年前期にかけて、この特色を生かして、自らの学びの機会をつくるとともに、後輩たちの指導育成にも積極的に携わっています。

今年度前期は、学部4年生の「教師発達論」の科目にアシスタントとして参加し、教員キャリアについてアドバイスをしています。（写真上…4月22日）

また、教育実習しか在学中に現場経験のできない学部生を現任校に連れて行き、授業はもろんのこと、学級経営をはじめ、さまざまな場面を



見せています。写真下は、2年生の宇山先生の現任校である鳥取県琴浦町立八橋小学校の学級開き参観の様子です。本学からは、教員3名（浅野教授・大野准教授・安藤准教授）と、学部3年生の5名が参加しました。（4月8日）

学部生の中に、中国からの留学生がおり、「日本の小学校は、中国の小学校と違い、単に勉強をするところではなく、生活態度や心を育て、生きていくうえでの大切なものを養う場所だと思いました。」と感想文を書いてくれました。今後、前期には、採用面接演習や模擬授業の示範等も行う予定です。

